



ごあいさつ

全国読売防犯協力会
会長

竹村 章

読売新聞販売店(略称・YC)と警察署や消防署との関わりは、未明に働いているという共通点もあり、区域内で起こった火事や不審者発見の通報、迷子の保護、人命救助など地域を見守る協力関係が自然のうちに出来上がっていました。しかしながら、いずれも個々対応という状況で、新聞販売店同士の横の連携がなく、いわば「点」の活動の域を出るものではありませんでした。

ところが、2003年(平成15年)に入ると、少年、女性、お年寄りが犯罪に巻き込まれる凶悪事件が多発するようになり、社会情勢を憂えた読売新聞社は「治安再生」をスローガンに、新聞紙上で犯罪防止キャンペーンを積極的に繰り広げました。

私たちYCは、読売新聞社の「治安再生」キャンペーンに呼応する形で、犯罪防止活動を「点」から「線」、そして「面」にまで発展させ

ようと組織化を急ぎました。その結果、各地の警察の協力を得ながら、翌2004年(同16年)、全国約10万人(当時)のYCスタッフが参加する全国読売防犯協力会が発足することになったのです。

ところが今は、全国組織となった当時と一変し、人口は減少し続け、少子高齢化も加速度が増している状況にあります。私たちが取り巻く環境は、超高齢社会へと踏み出したことで、ますます厳しさを増していると考えなければなりません。

今後の弊会の活動は、現在の社会状況に鑑み、①次代を担う宝である「子どもの命」を守る②女性に対する犯罪抑止につながる活動を強める③特殊詐欺に代表される高齢者に対する犯罪抑止に力を入れる―など、さらに創意工夫を凝らし、防犯活動の責務を果たしていきたいと考えます。

また、いま一度基本に立ち返り、

配達業務、集金業務などを担当するYCスタッフの防犯意識を高めることにも力を尽くすとともに、地域の皆様への「まごころサービス」を、引き続き実践してまいります。

最後になりますが、平素より地域の皆様のお世話になっているYCスタッフたちは、少しでも地元のお役に立ちたいと考えております。街で見かけたときは、お気軽に声をかけていただければ幸いです。

どうか皆様には、今後とも弊社に対する相変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつに代えさせていただきます。